

案内

光円寺・第一回、世話人会

三月三十一日(土) 午後七時〜 本年度の年間行事を決定します。

光円寺・草朋会・総会

四月一日(日) 午後七時〜

光円寺 山の家 満月・新月の集い

満月の集い…四月七日(土) 午後七時〜 *十七時まで必要連絡

光円寺 パンソング教室 初歩でもハイレベルでも個別指導 参加者募集

四月十七日(火) 午前十時〜(毎月第三火) 参加費五百円

山陽教区女性同朋のつどい 四月十八日(水) 十三時より 高砂市文化

会館「目に見えない」なかりをしつかり見よう」 酒井義一さん

山陽教区長島豊生園交流会 四月二十四日(火) 十三時十五分〜

参加希望者は山陽教務所に連絡すれば姫路から車でいけます。

光円寺 定例 同朋会

四月二十八日(土) 午後二時〜 親鸞さんのお手紙『唯信抄文意』

光円寺・選択本願念仏集字習会

四月三十日(月) 午後七時三十分〜 講師 玉光真人さん

真宗カウンスリング研究会研修会 四月三十一日(土) 十五〜十八時

山陽教務所 講師 村山實さん、梶原敬一さん 参加費千円

編集後記

この四月から世話人さんが交代し、先日、引き継ぎ会を持ちました。光円寺でも修復をしなければならない箇所があり、昨年の親鸞さんの御遺志を縁に書きて行くことが申し送られました。懇親会では、旧の世話人さんは終わつてみれば短かい三年間だった、新の世話人さんは三年は長いように感じられると話されていました。交代制になってから三十年近く、世話人さんとも父母と世交代されて今回、皆んな現役で仕事をされている方で私と同じような年齢の人が多くなりました。蓮如さんの御文の中に「後世」とか「後生」といふ言葉がよく出てきます。後世を知ることが、後生の一大事。と、私は思っています。後世はあのよ、後の世のこのよ。を知る。これは、未来がどうなるかを知ること。未来から今生が問われているのです。今生が後世を決める。今生のあの方が後世を創り出して行くのです。一人一人が「今



4/4 初味

をどのように生きていくのか、後世に生きていくのちから、未来の時から問われている。それは、身近かなところから言えば、これから生まれてくるであろう子や孫、ひ孫、やしや孫…とつながっているすてのいのちからの問い返しなのです。私たちは、今世において、後世に未来からの時を「今生きているのです。一年先を見る人は花を植え、十年先を見る人は樹木を植え、百年先を見る人は人を育てる」とか、「稲を育てるは一年の計、木を育てるは十年の計、人を育てるは百年の計」…と。今の私たちは、一年先、十年先、百年先のことなどに目も触れずに生きてはいませんか？今が、楽しいといふことは大事なことです。が、そこに「共に」といふ感覚が抜け落ちちゃうとどうなんですか？私達は、家族や友達、同僚上司、部下、趣味や同好会サークルの中で人間関係を紡いでいます。そんな人間関係に支えられながら生きていくのが私です。で、そんな関係のある人が怪我をしたり病気になるたり、不安を抱えて悩んでいたりするところ、やっぱり気になって自分だけ楽しく、面白くはならないです。それと同じように「後世を知る」といふことは、未来に生きる人たちがどのような世界の中に生きるのかに思いを馳せ、想像してみることではないでしょうか。で、未来に生きるいのちが、苦しみ悩み、辛い思いを抱えて生きるを得ない。そんな未来を今の私たちが造ろうとしている。造ってしまった…とすれば、私たちが、すべきことは「自ずと見えてくる」といふか未来から「自ずと見えてくる」のでしようね。そこを生きるのが、今生における「罪をひく」こと。また、「未来からの時を生きる、私たちの使命ではないでしょうか。(明)

3月号が出せずに4月合併号に…。3.11より一年は、まだ振り返ることができず過してしまつた気がします。まだ何が起つたか、何が起つていのか、がちゃんとかわからなくて、振り返ることができないのかもしれない。私は四重機の危機がとれへらいのこと、それが救われたこと、命をかけて守ってくれた人、今守っている人のことに、意識がなかった…。報道もなく、名前も伏せられているからだろうか。世界では彼らのことを「シンドローム」と呼んで、世界を救つた英雄として賞賛しているのかもしれない。国内ではあまりに無関心…。自分を救つてくれた存在に無自覚とは、まさに罪深い凡夫の有様だ。3.11一年、このままも続く気がして、悲しみに、祈りの日々々々。お念仏とともになむおみだす(桂)